



日本のウイスキー(+ジン、ラム) 蒸留所・生産者のリスト@2017+歴史上のウイスキーブランド総覧

Complete List of Whisky (+Gin & Rum) Distilleries/Producers in Japan 2017 + Historical Whisky Brands

ed.1 rev.4 @2017.05.25/tk



掲載方針: ●ウイスキーを製造している業者(蒸留器は、ポットスチルだけでなくハイブリッドや焼酎蒸留器などを含む。蒸留設備を持たずブレンドで販売しているウイスキー免許保持者も含む。流通のPBブランドは含まない。) ●ラムやジン(穀物原料の蒸留洋酒)も掲載。 ●ブランデー、グラッパ、カルバドスなど(ブドウやリンゴなど非穀物原料の蒸留洋酒)は非掲載 ●近年のウイスキー免許取得に関しては国税庁の公開済み情報による

蒸留器: ■PS=スコッチウイスキーで一般的な「初留1基+再留1基」で1対になったポットスチル 英国製・日本製のほかポルトガル製も 2基1対の場合は「PS」、それを超える場合には「PSx(蒸留器数)」と表示 ■CS=大型の連続蒸留塔 ■HB=ポットスチル1対ではない蒸留器(Kettleと多段Columnがセットになった、いわゆるハイブリッド蒸留器など)で、独・伊・仏・中国などの外国製のもの ■OT=日本製の蒸留器でポットスチル1対ではないもの(焼酎の単式蒸留器、小型の連続蒸留器など)、または蒸留器なし(ブレンドなどによる製品) ■UK=調査の範囲で不明

ウイスキー(スピリッツ)創業年: ■ウイスキー(またはラム、ジン)にかかわる免許取得年、蒸留所竣工年、蒸留開始年、製品販売開始年などを表示しては基準は一定していない ■会社創業年とは異なる場合が多い ■UK=調査の範囲で不明

| 名称 (北から県別) | 銘柄 | Brand (or Company) name | 種別 | 蒸留器 | ウイスキー (スピリッツ) 創業年 | 住所 (部分公開) | コメント |
|------------|-----------------|-------------------------------|-----------|---------|-------------------|-----------|---|
| 北海道 | ニッカウヰスキー 余市蒸留所 | Nikka | ウイスキー | PSx6 | 1934 | 余市郡余市町東 | 寿屋を辞した竹鶴政孝がスコットランドに近い理想の地として余市を創業の地を選び1934年に大日本果汁株式会社として設立 初めてのウイスキーの発売は1940年 現在ポットスチルは6基で石炭直火式 余市も宮城峡もニッカのポットスチルには「紙垂(しで)」「神棚などに使われる白い紙飾り」が付けてあるのは竹鶴政孝以来の伝統 ニッカウヰスキーの「斗」は「イ」ではない。ニッカは「ウヰスキー」、サントリーは「ウイスキー」 この辺りは→ http://www.kitasangyo.com/Archive/mlmg/melmaga153.html ニッカはスコットランドで「ベン・ネヴィス」蒸留所を所有 |
| 北海道 | 札幌酒精 | Sapporo | ウイスキー | OT | UK | 札幌市西区発寒 | 焼酎メーカー 昔からの地ウイスキーブランド |
| 北海道 | 厚岸蒸留所 | (Hokkaido Akkeshi Distillery) | ウイスキー・進行中 | PS | 2016 | 厚岸郡厚岸町宮 | 堅屋実業株式会社 2016年フォーサイス社の蒸留器設置 |
| 宮城 | ニッカウヰスキー 宮城峡蒸留所 | Nikka | ウイスキー | PSx8 CS | 1969 | 仙台市青葉区二 | ポットスチルは8基 余市と合わせるとニッカのポットスチルは合計14基 西宮工場にあった連続蒸留塔(Coffey Still2機、1962年製)も1999年に移設 ニッカとアサヒは創業時から縁があるが、2011年から完全子会社に 英国の専門誌DrinksInternationalが毎年発表する世界のスピリッツランキング「Millionair Club 2016」では、日本ウイスキーのトップはサントリー角瓶で350万ケース(1ケース=9リッター)、2位がブラックニッカで240万ケース Coffey Stillを使った「カフェジン」「カフェウォッカ」を発売すると発表 ジンは日本ポタニカルを使用 |
| 福島 | 笹の川酒造 | Cherry | ウイスキー | PS OT | 1946 | 郡山市笹川1丁 | 日本酒の蔵元 昔からの地ウイスキーブランドだが、あらたに2016年に三宅製作所のポットスチルを新設して本格的なウイスキー製造に参入 肥土伊知郎氏が東亜酒造の原酒を買い取ったとき貯蔵庫を提供して、ベンチャーウイスキーの創業を助けた |
| 茨城 | 木内酒造 額田醸造所 | Kiuchi | ウイスキー・進行中 | HB | 2015 | 那珂市額田南郷 | 清酒とクラフトビールのメーカー 2015年10月ウイスキー免許取得 蒸留器はハイブリッド |
| 埼玉 | ベンチャーウイスキー秩父蒸留所 | Ichiro's Malt | ウイスキー | PS | 2008 | 秩父市みどりが丘 | 肥土伊知郎氏(東亜酒造羽生蒸留所創始者の孫)が2004年に創業 2007年に秩父蒸留所を設立、2008年から稼働 蒸留釜はフォーサイス(Forsyths)製、モルトミルはAllan Ruddock製、ウォッシュバックは木製と本格的な設備 写真資料は→ http://www.kitasangyo.com/pdf/archive/world-alcoholic/new_whisky_distilleries.pdf サントリー・ニッカとともにこの10年、ジャパニーズウイスキーの世界的評価を高めた事に大きく貢献したブランド 2013年から自社内でフロアモルティングを開始 |
| 埼玉 | 東亜酒造 | Golden Horse | ウイスキー | OT | 1946 2016 | 羽生市西4丁目 | 清酒蔵元 1946年にウイスキー免許取得 自社ブランド、生協向けPBブランドなどのウイスキーを生産していたが2000年に民事再生、2004年にキング醸造傘下になってウイスキー製造は停止 2016年に輸入モルトのブレンドで販売を再開 銘柄は昔と同じ「ゴールデンホース」 |
| 東京 | 小笠原ラム・リキュール | Ogasawara Rum | ラム | OT | 1992 | 小笠原村母島寺 | 小笠原村の役場・農協・商工会によって設立された会社 |

| | | | | | | | | |
|----|-------------------------|-------------------------------|----------------------------|-------------|-------------|--------------|----------|--|
| 東京 | 合同酒精 | 香薫(こうくん) | Koukun | ウイスキー | OT | c1930 | 中央区銀座6-2 | 「香薫」というウイスキーを2013年から販売 PBウイスキー(イオンのTopvaluなど)も製造 ウイスキーの製造工場未確認のため本社所在地に掲載 オエノングループ旭川工場でも少なくとも戦時中からウイスキーを製造、1946年に東京工場、また1951年に八戸工場でもウイスキー免許取得 下記の[参考情報1]記載の通り、ネプチューンやコルトなどのブランドでウイスキーを製造していた |
| 山梨 | サントリー白州蒸溜所 | サントリー | Suntory | ウイスキー | PSx16 CS | 1973 | 北杜市白州町 | 山崎蒸溜所開設から50年の1973年につくられたサントリー2番目の蒸溜所「白州」ブランドの発売は1994年から 2013年に連続蒸溜機を設置してグレーンの製造を開始 山崎に続いてポットスチルを2014年に2対4基増設して計16基に したがって山崎と合わせるとサントリーのポットスチルは合計32基 |
| 山梨 | 南アルプスワインアンドビバレッジ | 鷹石和 ロイヤルオーク・金ラベル、銀ラベル | Taka Isawa Royal Oak | ウイスキー | OT | c2016 | 笛吹市一宮町上 | 酒販チェーンの株式会社徳岡が2011年にミネラルウォーターや輸入ワインの重点を行うために設立した会社 徳岡のホームページによれば「スコットランド職人仕立ての「ウイスキー鷹」、山梨県で生産した国産ウイスキーの「石和」 石和はモンデ酒造(下記[参考情報1]参照)で生産 「ロイヤルオーク」は酒販チェーンのリカーマウンテンで販売されるブランド |
| 山梨 | サンフーズ葦崎工場 | ウイスキー富士山 | Fujisan | ウイスキー | OT | 2017 | 葦崎市龍岡町下 | 2014年9月ウイスキー免許取得 「富士山」は輸入原酒をブレンドした商品 サンフーズはタイやベトナムに製造拠点を持つ会社 |
| 新潟 | 八海醸造 | | (Hakkaisan) | (ウイスキー免許取得) | UK | ... | 南魚沼市長森1 | 2016年4月、ウイスキー免許取得 |
| 長野 | 本坊酒造マルス信州蒸溜所 | マルス、岩井、ほか | Mars et.al. | ウイスキー | PS | 1949 1985 | 上伊那郡 宮田村 | 本坊酒造のウイスキー免許取得は1949年 1960年に鹿児島から山梨に蒸留設備を移設、1985年に信州工場を新しく設立して山梨から免許を移動 このとき設置した蒸留器は岩井喜一郎(竹鶴をスコットランドに送り出した摂津酒造の役員だったが、当時は本坊酒造の顧問。本坊酒造の元会長の本坊蔵吉の大阪帝国大学の恩師であり、岳父であった縁)が竹鶴ノートを元に設計 ウイスキー需要低迷で1992年から18年間蒸留を停止していたがジャパニーズウイスキーの世界的評価の高まりとともに2011年から蒸留再開 2014年にポットスチル(三宅製作所製)を更新 |
| 静岡 | キリンディスティラリー 富士御殿場蒸溜所 | 富士山麓、ほか (Ocean Lucky Gold) | Fuji Sanroku | ウイスキー | PSx4 CS | 1973 | 御殿場市柴怒田 | シーグラム・シーバスの3社合併のキリンシーグラム社として1973年に蒸留所を設立 2002年からキリンディスティラリー 輸入バーボン「フォアローゼス」のびん充填も行っている モルトとグレーンの両方を製造 ポットスチルは4基 連続蒸留器は3種 Ocean Lucky Goldは大黒葡萄酒以来の「オーシャン」の流れをくむブランド([参考情報2]参照) メルシャンが2007年にキリン傘下になった関係で大型PETボトル入り経済ウイスキーとして少量継続生産 |
| 静岡 | ガイアフロー | | (Gaiaflow) | ウイスキー・進行中 | PS | 2016 | 静岡市葵区落合 | 昔の軽井沢蒸留所の蒸留器を取得 新設のフォーサイズの蒸留器も2016年に導入 2017年蒸留所開業 |
| 富山 | 若鶴酒造 | サンシャインウイスキー | Sun Shine | ウイスキー | OT | 1952 | 砺波市三郎丸2 | 清酒の蔵元 昔からの地ウイスキーブランド |
| 岐阜 | 玉泉堂酒造 | ピークウイスキー | Peak | ウイスキー | OT | UK | 養老郡養老町清 | 清酒の蔵元 昔からの地ウイスキーブランド、一升壺ウイスキーも |
| 愛知 | サントリー知多蒸溜所 | サントリー | Suntory | ウイスキー | CS | 1973 | 知多市北浜町1 | サントリーのブレンド原料用グレーンを作っている 2015年に独自ブランド「知多」を発売 会社名はサンブレイン(サントリーの関連会社) |
| 愛知 | 相生ユニビオ | レインボーウイスキー | Rainbow | ウイスキー | OT | UK | 西尾市下町丸山 | みりん・清酒の会社 愛知酒精の時代からの地ウイスキーブランド レインボー三州ウイスキー |
| 三重 | 宮崎本店 | サンピース | Sun Peace | ウイスキー | OT | UK | 四日市市楠町南 | 焼酎メーカー 昔からの地ウイスキーブランド かつてのブランドはピース 一升壺ウイスキーもある |
| 滋賀 | 竹廣 ナインリーブズ蒸溜所 | ナインリーブズ | Nine Leaves | ラム | PS | 2013 | 大津市石山平津 | 竹廣株式会社 同社ウェブサイトの写真によれば蒸留器はスコッチウイスキーの初留釜・再留釜と同じ構成なので、左の欄ではPSと表示 |
| 滋賀 | 長濱蒸溜所・長浜ロマンビール | | (Nagahama Distillery) | ウイスキー・進行中 | PS | 2016 | 長浜市朝日町1 | 酒販チェーンのリカーマウンテン傘下のクラフトビールがウイスキーに参入 生産能力40KL/年の小規模クラフトウイスキー 蒸留器はポルトガルのHOGA Still社製 初留・再留ポットスチル各1基 昔のアブサン蒸留器を思い出させる独特の形状 |

| | | | | | | | | |
|----|------------|-------------------------------|------------------|-------------------|-------|-----------------|---------|---|
| 京都 | 京都蒸溜所 | 季の美 | Ki No Bi | ジン | HB | 2016 | 京都市南区吉村 | 「ナンバーワンドリンクス」社(日本ウイスキー輸出大手で、ベンチャーウイスキーの独占輸出権をもつ)が設立 蒸留器はドイツのクリスチャン・カール 日本固有のポタニカルを使ったジン ナンバーワンドリンクス社とウイスキー社(アランウイスキーなどの輸入)はデービッド・クロール氏が経営 |
| 京都 | 宝酒造 | キングウイスキー・凧 | King Whisky Rin | ウイスキー | OT | 1919 | 京都市下京区四 | 「凧」のほかに昔からの「king whisky」ブランドも小さく併記される ラベルには王冠のイラストとともに「since 1919」と書かれていて左に記載の創業年はこれを採用 サントリーやニッカなどの各種製品のラベルには「since 19xx」と年号が書かれているものが多いが1919年は現在販売されている日本ウイスキーで一番古い 始まりは混成ウイスキーだと考えられる かつては福島の白河工場で製造していた→下記 [参考情報2] 参照 現在のウイスキー製造工場は未確認のため本社所在地に掲載 なお 竹鶴政孝をスコットランドに留学させた摂津酒造は1964年に宝酒造と合併している 宝酒造はスコッチウイスキーのトマーチンを傘下に持つ |
| 大阪 | サントリー山崎蒸溜所 | サントリー | Suntory | ウイスキー | PSx16 | 1923 | 三島郡島本町山 | 鳥井信治郎の寿屋の創業は1899年 よく知られるように赤玉ポートワイン(現、赤玉スイートワイン)で稼いだ資金を山崎蒸溜所に投入 1923年に着工、24年に竣工 竹鶴政孝(ニッカの創業者)が初代工場長 1929年に初めての商品「サントリー白札」を発売 1924年4月7日、従来の「雑酒」免許ではなく、日本初の「ウイスキー」免許を取得 当時すべての酒に適用されていた製造年度に課税する「造石税」ではなく、蔵出し時点の石数で課税する「蔵出税」を認めさせた 24年竣工時は初留・再留ポットスチル各1基(1対2基、大阪の渡辺鋼鉄工所製、今も山崎蒸溜所の建物前にモニュメントとして飾られる) 58年に1対2基増設(計4基) 63年に2対4基増設(計8基) 68年に2対4基増設(計12基) 2013年に45年ぶりに2対4基増設(計16基) 2013年の4基は従来の12基とは別の建屋に収容 英国の専門誌DrinksInternationalが毎年発表する世界のスピリッツランキング「Millionair Club 2016」では、日本ウイスキーのトップはサントリー角瓶で350万ケース(1ケース=9リッター)、2位がブラックニッカで240万ケース 2011年にビームを買収してビームサントリー社に いまや傘下にバーボン、スコッチ、カナディアン、アイリッシュ、ジャパニーズの5つすべてをもつ |
| 大阪 | サントリー 大阪工場 | サントリー「六(ROKU)」 (2017年7月から) | Suntory | ジン | CS | 1919 (工場設立年) | 大阪市港区海濱 | 寿屋の創業1899年の20年後から稼働している量産工場 角瓶(ウイスキー)、ブランデー、リキュールなどの充填をおこなっているが、単式蒸留器や連続蒸留器ももっていてリキュール原料などを製造 2017年7月から、大阪工場の蒸留器を使ってジンの新商品「六(ROKU)」を発売すると発表 |
| 兵庫 | 江井ヶ嶋酒造 | ホワイトオーク あかし | White Oak | ウイスキー | PS | 1919 | 明石市大久保町 | 清酒の蔵元 1919年にウイスキー免許取得 現設備は1984年に導入した2基の三宅製作所施工の小型ポットスチル 1919年は宝酒造と並んで本リストでは日本最古 江井ヶ嶋酒造は、かつてはガラスびん(一升壺)を自社製造したこともある先進的な会社 |
| 岡山 | 宮下酒造・独歩 | 独歩 クラフトジン岡山 | Doppo | ウイスキー・進行中 ジン | HB | 2012 2016 | 岡山市中区西川 | 清酒とクラフトビールの会社 2015年にドイツ製ハイブリッド蒸留器を導入 現在は「ピラスピリッツ独歩」として販売 2016年に「クラフトジン岡山」発売 |
| 広島 | 中国醸造 | 戸河内ウイスキー | Togouchi | ウイスキー | OT | UK | 廿日市市桜尾1 | 清酒・焼酎の蔵元 昔からの地ウイスキーブランド 戸河内は原酒樽が貯蔵されるかつて国鉄が試掘したトンネルの名前 |
| 鳥取 | 松井酒造 | 倉吉 | Kurayoshi | ウイスキー | OT | 2016 | 倉吉市河原町1 | 2015年4月ウイスキー免許取得 貯蔵・ブレンドした商品 |
| 高知 | 菊水酒造 | セブンシーズ(ラム) | Seven Seas Rum | ラム (ウイスキー免許取得) | OT | UK ... | 安芸市本町4丁 | 清酒の蔵元 ラム(「セブンシーズ」「龍馬」)を製造 2015年11月ウイスキー免許取得 |
| 大分 | 三和酒類 | WASPIRITS TSUMUGI | WAPIRITS TSUMUGI | スピリッツ | OT | 2015 | 宇佐市大字山本 | 焼酎「いいちこ」製造元 「TSUMUGI」は麴を使った単式蒸留酒 ポタニカルや樽貯蔵の製品もある (参考情報7)参照 高崎譲吉が1890年にアメリカにわたって麴でバーボンウイスキーを造るプロジェクトを手掛けたのは有名 (参考)現在カナダには麴を利用したライウイスキーがある |

| | | | | | | | | |
|-----|------------------|----------------------|---------------------------|-----------------|-------|--------------|----------|--|
| 鹿児島 | 本坊酒造マルス津貫蒸溜所 | マルス、ほか ジン・和美人 | Mars et. al. WABIJIN | ウイスキー・進行中 ジン | PS HB | 1949 2016 | 南さつま市加世日 | 津貫は焼酎や地酒(九州特有の灰持酒)の製造工場敷地で本坊酒造創業の地 焼酎のかつての連続式蒸留塔も残る 本坊酒造のウイスキー免許取得は1949年 2016年に信州に次ぐ2番目の蒸留所として津貫に三宅製作所のポットスチル蒸留器 +イタリアBarisonのハイブリッド蒸留器を新設 信州と合わせると本坊酒造のポット スチルは合計4基 鹿児島にあった初代の蒸留器も津貫に飾られている 本坊酒造は屋久島にもエー ジングセラールを持つ 和美人はハイブリッド蒸留器でつくったジン、鹿児島のパタニカルを使ったもの |
| 鹿児島 | 高岡醸造株式会社 | ルリカケス、ほか | Rurikakesu | ラム | OT | UK | 大島郡徳之島町 | 黒糖焼酎のメーカー |
| 沖縄 | ヘリオス酒造 | Helios Rum ウイスキー層 | Helios Rum Whisky REKI | ラム ウイスキー | OT | UK (販売再開) | 名護市許田405 | 泡盛メーカー ラム酒製造で1961年に設立 地ウイスキーブーム時代と90年代には 台湾向け「神谷ウイスキー」を製造 2016年に在庫の原酒樽からウイスキーを商品化 してローソン限定で販売 |
| 沖縄 | グレイスラム | Cor Cor | Grace Rum | ラム | OT | 2004 | 島尻郡南大東町 | 沖縄電力の社内ベンチャーで金城祐子氏が設立した会社 社長のほかヘリオス酒 造、南大東村なども出資 |
| 沖縄 | 伊江島物産センター・伊江島蒸留所 | イエラム サンタマリア | le Rum | ラム | OT | 2011 | 国頭郡伊江村東 | 株式会社伊江島物産センターは伊江村の第三セクター 蒸留設備は2009年ま でアサヒビールと伊江島などが行っていたバイオエタノール実験プラントの転用 |

[参考情報 1] 1980年代の「地ウイスキーブーム時代」に存在した、今はないブランド（上記リスト掲載の「今も続くブランド」を含めると1980年代には20以上のブランドがあった）

●社名は当時のもので、今は経営主体が変わっている場合、会社が存在しない場合もある。●すべてを網羅していないと思われる。●ウイスキー免許はもつが醸造設備を持たず、ブレンド品を自社ブランドで売る会社も含む。

| | | | | | | | | |
|----|----------|-------------------------------|--|-------|--|------|-------|--|
| 群馬 | 美峰酒類 | ゴールドカップ、ほか | | ウイスキー | | UK | 高崎市 | |
| 埼玉 | ローズウイスキー | ローズ・ハミー | | ウイスキー | | UK | 所沢市 | |
| 新潟 | 金升酒造 | キンショー | | ウイスキー | | UK | 新発田市 | |
| 山梨 | モンデ酒造 | ロイヤルクリスタル、モン デ、ほか | | ウイスキー | | UK | 笛吹市 | |
| 山梨 | 富士醸造工業 | リリアン | | ウイスキー | | UK | 塩山市 | |
| 千葉 | 合同酒精 | ナンバーワン、ネプチュー ン、コルトウイスキー、ほか | | ウイスキー | | 1951 | 松戸市 | |
| 東京 | 協和醸造工業 | ダイヤモンド | | ウイスキー | | UK | 千代田区 | |
| 静岡 | 東洋醸造 | 45、ジュピター、パイロン | | ウイスキー | | UK | 伊豆の国市 | |
| 静岡 | 福泉産業 | オールドジョウ | | ウイスキー | | UK | 富士市 | |
| 愛知 | 東海発酵工業 | ラッキーサン | | ウイスキー | | UK | 名古屋市 | |
| 大阪 | 西川洋酒 | キングライオン | | ウイスキー | | UK | 大阪市 | |
| 徳島 | 日新酒類 | ヤングセブン | | ウイスキー | | UK | 徳島市 | |
| 沖縄 | バートン | バートン | | ウイスキー | | UK | うるま市 | |
| 沖縄 | クラウン商事 | クラウン | | ウイスキー | | UK | 浦添市 | |

[参考情報 2] 1960年以降に閉鎖されたウイスキー蒸留所(上記の地ウイスキーブーム時代のブランドとは、あまり関係ないと考えられるもの)

●社名は当時のもので、今は経営主体が替わっている場合、会社が存在しない場合もある。●すべてを網羅していないと思われる。

| | | | | | | | | |
|-----|--------------------------------------|------------------------|--|-------|--|----------------|------|---|
| 福島 | 大黒葡萄酒→宝酒造の白河蒸留所 | キングウイスキー アイデアルウイスキー | | ウイスキー | | ～2003 | 白河市 | 元は大黒葡萄酒が1939年に設立した工場 オーシャンの原酒を造っていたかどうかは不明 戦後、占領軍の独占禁止政策にそって、大黒葡萄酒は宝酒造の系列を離れて独立 その影響で白河工場は1947年に宝酒造が買収して白河工場・蒸留所となり「キング ウイスキー」ブランドを生産 2003年に閉鎖、千葉の松戸工場へ移転 1960年ころは、寿屋(サントリー)、ニッカ、大黒葡萄酒(オーシャン)、東洋醸造(レア オールド)、宝酒造(キングー特級、アイデアルー二級の一升壺)が国産ウイスキー主 要5ブランド |
| 埼玉 | 東亜酒造の羽生蒸留所 | ゴールデンホース | | ウイスキー | | C1980～ 2000 | 羽生市 | 1946年の免許取得当初は輸入原酒のブレンドだったが1980年ころポットスチルを設 置、2000年まで蒸留していた「ゴールデンホース」、COOP向けの「虹の宴」ブランド など 2004年にキング醸造傘下に このとき在庫のウイスキー樽はベンチャーウイスキー の肥土伊知郎氏に引き継がれた |
| 東京 | 大黒葡萄酒→オーシャンの東京工場 | オーシャン | | ウイスキー | | 1946～ 1965? | 新宿区 | 1919年開設の工場 戦災で全焼した東京工場を戦後再建、1946年に蒸留器を設 置 1965年頃から壺詰め中心の工場に 1966年東京工場廃止 |
| 神奈川 | 三楽酒造→三楽オーシャンの川崎工 場 | オーシャン サンラック | | ウイスキー | | 1958～ C1980 | 川崎市 | 三楽酒造の川崎工場として1935年竣工、1958年からモルトとグリーンを製造 モル ト製造は1961年までで以降は山梨に移管 1962年にオーシャンと合併して三楽オー シャンとなる 1966年にオーシャン東京工場を藤沢工場に・藤沢工場の蒸留器を川 崎工場に移設 1969年に英国マクミラン社のカフェ式連続蒸留器を導入してグリーンウイスキーを製 造 以降、川崎でグリーン、軽井沢でモルトの体制 三楽オーシャンは1985年に三楽 株式会社に、1990年にメルシャンとなった 工場閉鎖は2003年 なお、三楽はオーシャンとは別に、1937年から「サンラック・ウイスキー」を、1959年から 「サンラック・ゴールド・ウイスキー」を販売していた |
| 神奈川 | 東京醸造の藤沢工場 | トミーウイスキー | | ウイスキー | | ～C1960 | 藤沢市 | 東京醸造は戦前に混成ウイスキーを造っていた会社だがポットスチルを導入 1937年 に「トミーウイスキー」を発売 1955年倒産 工場は寿屋、ついで森永醸造の手にわ たったが1960年代に閉鎖 寿屋以降にウイスキー製造に使われたかどうかは不明 |
| 山梨 | 三楽酒造→三楽オーシャンの山梨工 場 | サンラック | | ウイスキー | | 1961～ 1969 | 山梨市 | 川崎工場だけでは原酒不足になると考えて増設された工場 ステンレス製のは初留・ 再留ポットスチル各1基 三楽オーシャンに合併後は製造は軽井沢に集約 |
| 長野 | 大黒葡萄酒→オーシャン→三楽オー シャン→メルシャンの軽井沢蒸留所 | オーシャン 軽井沢 | | ウイスキー | | 1955～ 2011 | 北佐久郡 | オーシャンは大黒葡萄酒時代からのブランド 戦後1946年からオーシャンウイスキーと して発売、本格ウイスキーとしては1954年から サントリー、ニッカと並ぶブランドだった 1961年に大黒葡萄酒からオーシャンに社名変更 軽井沢は元は大黒葡萄酒の軽井沢農園として1936年に設置 蒸留所は1955年から 稼働 4基の小型ポットスチルがあった 2011年に閉鎖 1976年から「軽井沢」を販売 市場に残る軽井沢ブランドのウイスキーは1本数十万 円と高価 ナンバーワンドリンクス(「京都蒸留所」参照)がいまも海外に輸出 |
| 長野 | 大黒葡萄酒の塩尻工場 | オーシャン | | ウイスキー | | 1952～ 1956 | 塩尻市 | 1938年開設の工場 1952年から免許を得てモルトを製造 ポットスチル1基で初留と 再留 1956年に軽井沢に製造を移管 |
| 兵庫 | ニッカウヰスキーの西宮蒸留所 | ニッカ | | ウイスキー | | 1962～ 1999 | 西宮市 | 1962年に英国ブレア社のカフェ式グレインウイスキー連続蒸留器を導入 アサヒビール 西宮工場の隣接地で今もニッカの西宮工場 蒸留器は1999年に宮城へ移設され、 現役で使われている |
| 鹿児島 | 本坊酒造、鹿児島工場 | マルス | | ウイスキー | | 1949～ 1985 | 鹿児島市 | 本坊酒造の最初のウイスキー蒸留場所 免許は山梨に、次いで長野に移された 初 期の鹿児島市の蒸留器は現在、津貫に飾られている 現在もモルトオブカゴシマが入手 可能 |

[参考情報 3] 戦後4年目、1949年に存在した、ウイスキーブランド(「全国酒造家名鑑」(昭和24年11月発行)から、「雑酒」でウイスキーと思われるものを抽出)

●当時は酒税のカテゴリに「ウイスキー」がなく「雑酒」に分類されていた。銘柄にウイスキーがついていない場合は推定で抽出し、カテゴリ欄に(ウイスキー)と記した。●住所は当時のもの。●引用文献に寿屋・山崎蒸留所の記載がなく、明らかな欠落と思われるので補記した。

| | | | | | |
|-----|---------------|----------------|---------|--|---------|
| 北海道 | 大日本果汁(現、ニッカ) | ニッカウヰスキー | ウイスキー | | 余市郡 |
| 北海道 | 札幌酒精 | ザッポロウヰスキー | ウイスキー | | 札幌郡と亀田郡 |
| 岩手 | 濱藤酒造店 | ローヤルウヰスキー | ウイスキー | | 盛岡市 |
| 福島 | 郡山酒造(現、笹の川) | チェリーウヰスキー | ウイスキー | | 郡山市 |
| 福島 | 賈酒造・白河工場 | キングウヰスキー | ウイスキー | | 白河市 |
| 栃木 | 橋本雄飛太郎 | ウイスキーユープリッチ | ウイスキー | | 下都賀郡富山村 |
| 群馬 | 美峰酒類 | シティクラブウヰスキー | ウイスキー | | 高崎市 |
| 新潟 | 金升酒造 | キンショウウヰスキー | ウイスキー | | 北蒲原郡 |
| 千葉 | 中央酒類 | セントラル | (ウイスキー) | | 市川市 |
| 東京 | 菊美酒精 | 白鳩ウヰスキー | ウイスキー | | 墨田区向島 |
| 神奈川 | 大和酒造 | イリスウヰスキー | ウイスキー | | 藤沢市大庭 |
| 神奈川 | 東京醸造 | トミモルトウヰスキー | ウイスキー | | 藤沢市藤沢 |
| 神奈川 | 三楽酒造 | サンラック | (ウイスキー) | | 川崎市 |
| 愛知 | 東海醸造 | ラッキーサン | (ウイスキー) | | 西春日井郡 |
| 愛知 | 廣瀬合名 | ゴールドデンビル | (ウイスキー) | | 名古屋市 |
| 愛知 | 丸中酒造 | オールドパシフィック | (ウイスキー) | | 半田市 |
| 静岡 | 福泉食品工業 | ラッキーセブン | ウイスキー | | 富士郡 |
| 三重 | 宮崎由太郎(現、宮崎本店) | ピースウヰスキー | (ウイスキー) | | 三重郡 |
| 岐阜 | 間三吉 | サンフジ | (ウイスキー) | | 恵那郡中津川 |
| 岐阜 | 玉泉堂 | ピーク | (ウイスキー) | | 養老郡 |
| 大阪 | 寿屋 | サントリーウヰスキー | ウイスキー | | 三島郡山崎 |
| 大阪 | 摂津酒造 | 金扇? | (ウイスキー) | | 住吉区 |
| 兵庫 | 西宮酒精 | ウイスキー | ウイスキー | | 西宮市 |
| 兵庫 | 第一酒造 | アベックウヰスキー | ウイスキー | | 武庫郡御影町 |
| 岡山 | 辻本店 | ウイスキー | ウイスキー | | 真庭郡 |
| 広島 | 中国酒造 | (銘柄不詳) | (ウイスキー) | | 佐伯郡 |
| 山口 | 日本化業製造・厚狭化成工場 | サンウヰスキー | ウイスキー | | 美祢郡 |
| 長崎 | 宝酒造・長崎工場 | イデアルウヰスキー | ウイスキー | | 長崎市 |
| 大分 | 寿屋・大分工場 | オールドサントリーウヰスキー | ウイスキー | | 北海郡郡臼杵 |

[参考情報 4] 第二次世界大戦、直前・直後の日本のウイスキーの状況

●閉戦の年、1939年度(昭和14年3月～15年2月)に製造された県別のウイスキー

「東京5,900石、大阪3,632石、兵庫1,305石、神奈川1,163石、北海道302石、広島286石、100石以下静岡、福岡、愛知、岡山」(出典:「合同酒精社史(昭和45年刊)」)

東京はオーシャン・東京工場など数社、大阪は寿屋(現、サントリー)・山崎蒸溜所など、兵庫は江井ヶ島酒造など、神奈川は三楽酒造・川崎工場や東京醸造・藤沢工場など、北海道は合同酒精・旭川工場など(ニッカは未発売)、と推定される。

それ以下の、広島、静岡、福岡、愛知、岡山の各県にも小規模なウイスキー製造工場があったことになるが、銘柄は不明。合計製造者数は20社程度だと推定。

戦中は日本海軍の指定工場(寿屋やニッカ)では大きな需要があったが、それ以外の多くの会社は、特に戦争末期はウイスキー製造を休止したと考えられる。

●終戦の翌年、1946年頃の状況

「新たに二十軒を超える酒造会社がウイスキー製造免許を得ていた」(出典:「ヒゲのウヰスキー誕生す」川又一英 初版は1983年)

●終戦の5年後、1950年頃の状況

「ウイスキーの輸入は昭和十五年(1940年)を最後に断絶(とだえ)えていた。国産ウイスキーはこの年、寿屋、大日本果汁、東京醸造、三楽酒造など三十数社が製造免許を持っていた(後略)」

「当時、ウイスキー市場の八割近くは三級ウイスキーで占められていた。三級ウイスキーは税法上<原酒が五パーセント以下、〇パーセントまで入っているもの>と規程されていた。

〇パーセント、つまりウイスキー原酒が一滴も入っていないとも、税金さえ納めればウイスキーとして堂々と通用した。」(出典:同上)

戦後は占領軍の影響もあってウイスキー需要が高まり、製造者が30数社になった。食料にも困窮する経済環境下で、安価な三級ウイスキー(当時は、一、二、三級の3段階)が最もよく売れた。

戦時下と戦後の多くの三級ウイスキーは、購入したアルコールをベースに造られていた。良心的な場合は原酒(輸入できないので、寿屋、大日本果汁、東京醸造、三楽酒造などから購入)をブレンドしていたが、まったく原酒の入っていないものも多々あった。

この時代のいくつかの三級ウイスキーブランドは、[参考情報 6] で述べる初期の模造ウイスキーより、さらに模造度合いが高いと考えられる。

[参考情報 5] 昭和初期に日本に存在した、大手ブランド以外の本格ウイスキーの事例

清酒「大平山」ブランドの小玉合名(現、小玉醸造)は、「昭和17年、大成酒造として東北初の合成清酒工場を建設した。軍用燃料アルコールやウイスキー製造にも着手した。「ラッキーウイスキー」はポットスチルと椀樽を用いた本格的モルトウイスキーだったが、戦後は種類の生産拡大に伴い清酒に専念し、「上方”酒”ばなし」(大阪大学総合学術博物館叢書)から、大手ブランド以外にもポットスチルを導入した酒造家がいたことがわかる。

[参考情報 6] 明治末期から大正、昭和初期にかけて日本に存在した、模造ウイスキー、混成ウイスキーのブランド

今でいえば「模造(イミテーション)」だが、当時は「合成」や「混成」といわれ、一般的、あるいはむしろ進歩的とされた。多くのブランドが存在したそうですが、ブランド名は調査できていません。たとえば寿屋も山崎蒸溜所(1923年着工)以前、1911年(明治44年)に混成ウイスキー「ヘルメスウイスキー」を発売、また1920年(大正9年)には塩詰めウイスキーハイボール「ウキスタン」(たぶん「ウイスキー炭酸」を短くしたネーミング)を発売していた。1919年、偶々樽詰めで長期保管されていたリキュール用アルコールがまろやかな味になっていることを見つけ「トリスウイスキー」として限定販売したものが好評だったことが、鳥井信治郎のウイスキー製造の動機の一つであったといわれる。日本では終戦後まで、ウイスキーだけでなくワインも清酒も、混成や合成の商品が多かった。「合成清酒」は今も一定の市場規模で残っている。

[参考情報 7] 竹鶴以前にウイスキーに取り組んだ日本人、高峰譲吉

竹鶴政孝:大阪高等工業学校(現、阪大工学部)醸造科から、大阪の有力洋酒メーカーの摂津酒造(寿屋の赤玉ポートワインの製造受託もおこなっていた)に就職。当時同社は国産の本格ウイスキーを計画しており、社長の阿部喜兵衛、常務の岩井喜一郎が、技術習得のため竹鶴政孝を1918年にスコットランドに送り出した。竹鶴は、グラスゴー大学で学び、蒸溜所でウイスキー製造を体得して1920年11月帰国。ところが、帰国したとき摂津酒造は経営状況が芳しくなくウイスキー製造を断念。もしそうでなければ、日本初の本格ウイスキーは、寿屋(サントリー)ではなく、摂津酒造だったかもしれない。(摂津酒造は1964年に宝酒造と合併。現、宝酒造灘工場は、摂津酒造の敷地。)

高峰譲吉:タカジアスターゼやアドレナリンの発見者であり、三共(現、第一三共)の初代社長。工部大学校(現、東大工学部)応用化学科を首席で卒業。1880年から英国グラスゴー大学への3年間の留学を経て、農商務省に入省。米国で特許出願した「高峰式元麹改良法」はウイスキー製造に用いるモルト(麦を発芽させてその酵素で糖化する)よりはるかに効率の良い方法で、その技術に目を付けた当時アメリカ最大のウイスキー会社、シカゴのウイスキートラスト社からの招聘を受け、1890年、高峰は米国にわたる。1891年、イリノイ州ピオリア(シカゴから南西200km。当時ウイスキー原酒をほぼ独占的に供給していた街、現在はキャタピラー社の本社があることで有名)に居を構え、試験醸造所で麹による糖化の実証実験を行う。個人として招聘企業に雇用されるのではなく、「Takamine Ferment Company」(タカミネ・ファーマント社、麹の技術売り物とする会社)を設立して、会社として招聘企業と開発契約した。麹による麦糖化は、実用化の目処がしたが、モルト業者らの執拗な抵抗にあい、不審火によって試験醸造所を焼失。結局この技術は実用されることなく、日の目を見ずに終わっている。

竹鶴と高峰:サントリー山崎の初代工場長(1923年)、ニッカの創業(1934年)、本坊酒造信州工場の蒸留器(1985年)は竹鶴ノートを基に岩井喜一郎が設計したことなど、竹鶴政孝は「日本ウイスキーの始祖」であることは間違えない。一方、高峰譲吉が竹鶴の38年前に同じグラスゴー大学で学び、竹鶴が日本でウイスキーづくりに携わる32年前にアメリカのウイスキー企業で新技術を研究していたことは、日本ウイスキー産業史に記すべきことと考える。高峰はグラスゴー大学時代にウイスキー製造の概要を知り、モルトより麹のほうが効率が良いという着想を得たのだと考える。

余談ながら、現在、カナダのウイスキー(ライ麦のウイスキー)で、麹で糖化した製品がある。法律でウイスキーの糖化法はモルトと定めている日本や英国では実現出来ない方法だが、カナダで高峰の構想が実現した格好だ。さらに余談ながら、高峰の妻キャロラインはアメリカ人、竹鶴の妻リタはイギリス人で、ともに国際結婚。二人の妻は高峰。竹鶴の業績に大きな貢献を果たしている。この国際結婚がなければ、日本のウイスキーや、第一三共はなかったかもしれないと思う。

竹鶴政孝:大阪高等工業学校(現、阪大工学部)醸造科をへて、大阪の有力洋酒メーカーの摂津酒造(寿屋の赤玉ポートワインの製造受託もおこなっていた)に就職。当時同社は国産の本格ウイスキーを計画しており、技術習得のため社長の阿部喜兵衛、常務の岩井喜一郎が、竹鶴政孝を1918年にスコットランドに送り出した。竹鶴は、グラスゴー大学に学びウイスキー製造を体得して1920年11月帰国。帰国したとき摂津酒造は経営状況が芳しくなくウイスキー製造を断念したが、そうでなければ、日本初の本格ウイスキーは、寿屋(サントリー)ではなく、摂津酒造だったかもしれない。(摂津酒造は1964年に宝酒造と合併。現、宝酒造灘工場は、摂津酒造の敷地。)

●本リスト・資料には不明な項目が多くあります。また抜けや間違いがあるかもしれません。ご存知の情報、お気づきの点などがありましたら、きた産業のコンタクトフォームを使ってご一報ください。

(end of papers)